



Free+ International School

SCHOOL GUIDE







代表挨拶

FISの活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私たちは今、AIやテクノロジーが急速に進化する時代を生きています。「言われたことを正確にこなす力」や「知識を多く持ち、正解を導き出す力」だけでは、これからの社会を生き抜いていくことが難しくなっています。

これから本当に求められるのは、確かな母国語力を土台に自ら感じ、考え、選択し、行動する力。

そして何より、自分の得意なことや好きなこと。

一すなわち“自分の才能”を活かし、自分に合ったフィールドで、他者と協業しながら失敗を恐れず挑戦し続けられる力です。

普段の生活中で培われた「ひらめき」や「発想力」をとことん活かし、努力を惜みず、人生そのものを楽しみながら生きていく力。それこそが、これからの時代を生き抜くための土台だと考えています。

子どもたちは、誰もが生まれながらにして、それぞれ固有の感性や特徴、リズム、そして探究心を持っています。これらの力は、無理に教え込むことで育つものではありません。安心できる環境の中で「知りたい」「やってみたい」と感じながら学び、探究することで、自然と育まれていくものです。

子どもの未来を大きく左右するのは、「何を学ばせるか」以上にどのような環境で、周囲とどのような関係性を育んでいくのか、ということに尽きると思います。

信頼関係に包まれた環境の中で、日常生活の土台が整えられたとき、子どもたちは教えられなくても、自ら好奇心を持ち、勝手に成長していきます。

FISのMission Statement(P10)でも掲げている

- ①安心感と信頼関係
- ②感情性・社会性
- ③考える力・行動する力
- ④自由・責任・尊重

これら4つのElementsは、これからのAI時代を生き抜く上でも、変わらず欠くことのできない力です。

この時代だからこそ、子どもと家族が安心して原点に立ち戻れる「家庭と教育の土台となる場所」でありたいと考えています。育つ“土台”さえ整えば、子どもは自分で伸びていく。FISは、その土台づくりを家族の皆さんと一緒に伴走いたします。

ここでの学びと出会いが、子どもたち一人ひとりの未来を創る確かな力へとつながることを心より願っています。

Free+ International School 理事長 青沼弥幸

FIS

Free+ International School



2023.6.24 「FISと考える新しい教育のカタチ」講演会より

もくじ

① 学校概要

- 1.教育理念
- 2.Mission Statement
- 3.Vision
- 4.Domain [学びの領域／発達領域]
- 5.Free+ International Schoolとは？
- 6.International の考え方
- 7.子どもたちのルール
- 8.プログラム全体像
- 9.プログラムの特徴

② 大人の学び

③ 学びのフレームワーク

- 1.Base Theme
- 2.Advance Theme & Project
- 3.Theme Activity & Project詳細
 - ・ Base Theme[衣・食・住]
 - ・ Advance Theme[Media & ICT]
 - ・ Project
- 4.年間スケジュール
- 5.学習指導要領との比較《小学部》

④ Daily Program

- 1.Kindergarten
- 2.Grade School
- 3.Midlle School
- 4.自己実現のための基礎力

⑤ スクール生活をスタートするにあたり

- 1.スクールでの生活について
- 2.学びの準備品
- 3.欠席・遅刻・早退について
- 4.通学定期について
- 5.スクール発行の書類および家庭からの提出書類
- 6.情報共有の仕組み
- 7.子どもの健康に関する方針
- 8.個人情報の取り扱い
- 9.ご契約について
- 10.災害発生時の対応
- 11.利用者向け保険
- 12.寄付金について
- 13.スクール運営法人

1 学校概要

1. 教育理念

《幼少部》

子どもと家族の信頼関係を通じて、子どもの人間性の基礎を育みます

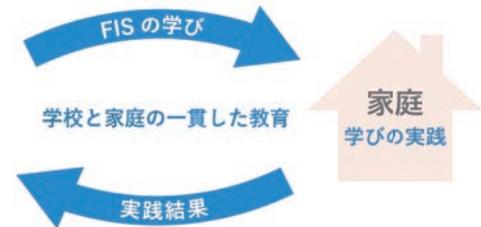
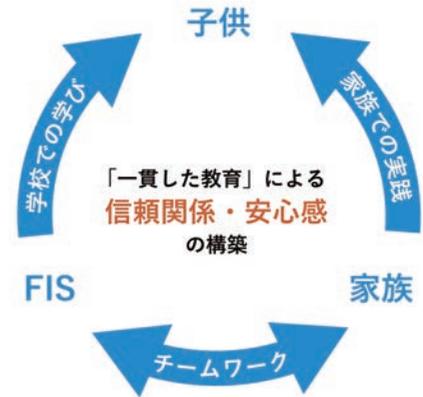
子どもはこの世に生を受けた瞬間(マタニティ・0歳)から、一番近くに寄り添う信頼する家族を通じて様々な学びを深め成長していきます。

子どもにとって家族は最も身近で、影響を与える存在であり、家族が日々一貫した態度で子どもと向き合うことは子どもとの「信頼関係」を深く築くことにつながります。

子どもは「信頼関係」を通じて、安心感、感覚、感情、社会性などの人間性の基礎を育みます。

一貫した教育の提供

FISでは教育の原点は「家族」にあることを前提とし、学校と家庭の一貫した教育を行います。FISに関わる皆がチームとなって、子供の成長をサポートします。



《小学部》

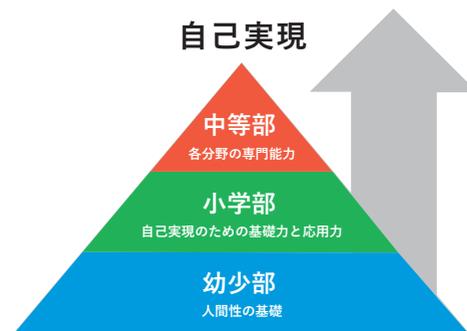
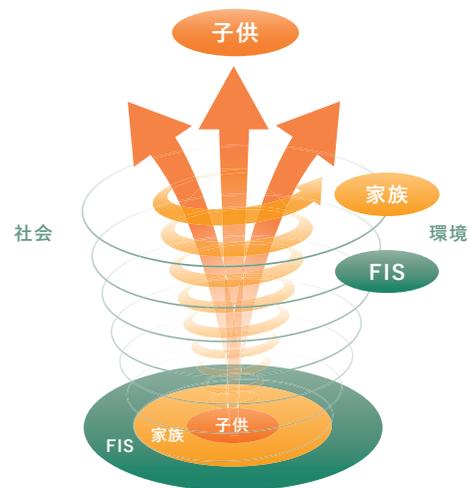
子どもが本来持っている力を最大限引き出していく環境を提供します

学童期の子どもたちは、それまでに育んだ家族との信頼関係を通じて、日々成長を続けていきます。

小学部での学びのフィールドは「身近な社会(家族・学校・公園等)」から「大きな社会(地域・日本・世界等)」へ拡大していきます。その中で、子どもたちの成長に最も大きな影響を与えていくものが『家族』そして『環境』です。FISでは、子どもたちの成長に寄り添い、子どもが本来持っている力を最大限引き出していく『環境』を提供します。

子どもたちが本来持っている力を最大限引き出していく環境

人間は皆、一人一人持っている力(能力)が異なります。FISでは、子どもたちを丁寧に観察し、本来持っている力を最大限引き出していく教育環境を提供します。個性あふれる子どもたちが社会で活躍し、自己実現していくために必要な「基礎力」と「応用力」を育みます。



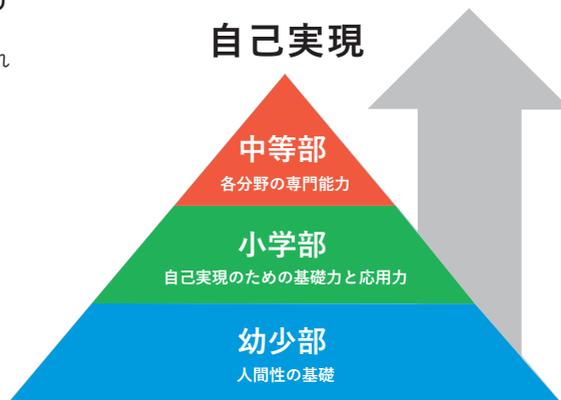
《中等部》

「自己の専門性」を見つけ「社会へ挑戦する力」を育みます

これまでに育んできた家族との信頼関係や、人間性の基礎、そしてこれまでに身につけた「基礎力・応用力」を土台に、子ども一人ひとりが自らの興味・関心や好奇心に従って「専門性」を育むフェーズに入ります。

学びを超えて、社会に働きかける力

中等部では、「好き」や「得意」を深めていくだけでなく、複数人で協働するプロジェクトの中で、自らの役割を認識し、他者と協業しながら、全体を俯瞰して方向性を導くリーダーシップ、プロジェクトを遂行するマネジメント力も育てていきます。他者に関わる力、責任を果たす力、自分の想いを伝える力が、自然と養われていきます。



2. Mission Statement

『子ども自身』と『家族』が『価値を高める環境』を提供します。

FISでは、学びの環境を通じて、子どもたちが自己実現のための必要な Elements(要素)を育み深めることにコミットしています。これが、FISで提供する[価値を高める環境]です。

以下のElements(要素)は、FISの学びの指針でもあり、これらを深めることにより「自己実現」のための「必要な力」を高めていきます。そして、子どもたちがこれらの要素を育む様子を注意深く観察していきます。子どもたちへの評価(子どもたちの情報を集めること)は、この要素に基づき行われます。

幼少部では、人間性の基礎となる4つのElementsを大切にしています。これら4つのElementsは、すべての土台となる要素です。

《幼少部》

要素	内容
安心感 Safety	自分自身への理解、身体への理解、 周囲との関係性など
感覚 Sense Intelligence / Wit	物事の意味合い、考える力、決断する力、 創造性、柔軟性、適応性など
感情 Emotion	感情整理、感情表現など
社会性 Sociality	コミュニケーション、人間関係、 自己管理、自己表現など

小学部では、幼少部のElementsを土台に自己実現のための基礎力、応用力を育むため、より具体的な要素に転換しています。中等部では、小学部で育む4つのElementsの土台の上に、[専門性とプロジェクト遂行力]を育てていきます。

《小学部》

Elements 《育む要素》

- 【安心感と信頼関係】** ～すべては『安心感』と『信頼関係』から始まる～
自分自身への理解、身体への理解、自己管理、自分と家族の関係性・周囲との関係性などを育みます。
- 【考える力／行動する力】** ～自ら考え、選択・決断し、行動する力～
物事の意味合い、考える力、決断力、創造性、柔軟性、適応性、自己表現などの力を育みます。
- 【感情性・社会性】** ～人は感情の生き物であり、私たちは社会の中に生きている～
感情整理、感情表現、コミュニケーション、人間関係、チームワーク、実社会への適応、活動フィールドの理解と活用なども含みます。
- 【自由・責任・尊重】** ～『自分自身』の尊重と『他者』への尊重
『真の自由』の獲得と、それに伴う『責任』～
自己承認、他己承認、セルフリーダーシップ、リーダーシップ、目標設定、目標達成、ダイバーシティなどが含まれます。

《中等部》



- 【専門性とプロジェクト遂行力】** ～興味関心を持つ分野の探究と社会的プロジェクトの遂行～
好奇心、探究心、直感力、ひらめき、自分の特性への理解、問いを立てる力、問いを解く力、プランニング力、マネージメント力、役割、協業、組織化、仕組み化など、実社会でのプロジェクトを通じて力を育みます。

3. Vision

FISの子どもと関わる大人は、以下のVisionを掲げています。

- ・ FISの”子どもと関わる大人”は、常に子どもと向き合い、子どもたちの可能性を広げていきます
- ・ FISの”子どもと関わる大人”は、常に学ぶ姿勢を持ち、自身を磨き、高めています
- ・ FISでは”家族の子どもたちへの関わり”をプロフェッショナルサポートします



4. Domain [学びの領域/発達領域]

FISの学びは、すべてDomain[学びの領域/発達領域]の上に育まれます。Domainとは、子どもたちが学びを深めていく上で注視して観察していく領域のことです。この4つの領域は、すべてが重なり合い影響し合います。

例えば、子どもたちは「身体」を使って行動します。お友達との「関係性」は「ことば」で育み、『社会性・感情性』『ことば・認知』が関わります。更に物事を「考える力」は『知性』となります。

子どもたちの情報は、Domainに基づいた具体的なエピソードを蓄積していきます。

Domain	
身体	身体、神経、感覚（脳）、体感、五感、感覚の成長、バランス感覚、物事に身体（体感）を通じて向き合うこと
社会性 感情性	他者との関係性（人間関係）コミュニケーション、自己承認、他者承認、場所への理解、役割、責任、適応力 感情・情緒面：感情（気持ちの）整理、感情（気持ちの）表現
ことば・認知	言葉の理解、言葉の意味合い、発語、発話、会話、思考 物事の意味合いの理解
知性	物事に対する思考力（考える力）、論理的思考、原因と結果、判断、選択、分類など 物事に対する知識全般：数、文字、原理原則、原因結果、シンボル、生活、社会分野での知識などが含まれる



5. Free+ International Schoolとは？

「Free+」 = 「真の自由」

子どもたちに「真の自由」を獲得してほしい！という願いのもと、Free+ International Schoolと命名しました。

Free = 自由という言葉は、かつて、福澤諭吉が「自らを由（ゆう）すること」つまり「自らをよしとする」（自らの選択を肯定する）という意味合いで翻訳したとのことです。

Mission Statementに「自由・責任・尊重」という項目があります。

自らが考えを持ち、自らの選択を肯定することで、社会の中でも「自由」であることを体感して欲しいと考えます。他者の評価軸ではなく、自分自身が選択・決断をし、行動した結果「自由」が獲得できるということです。

合わせて「自由」には、必ず「責任」と「尊重」が伴うことも伝えていきます。

選択に対し「責任」が伴うこと（≠放任）、自分と他者を「尊重」するからこそその自由である（≠自分勝手）。「自分」と「他者」を尊重し、自分自身の選択に「責任」をもち、はじめて「自由」を手にすることができるのです。



6. Internationalの考え方

FISでは、「International」を「自身と周囲との関係性を築くこと」と定義しています。その定義の基礎は、自身の周囲にある家族・友達・学校などの身近な社会と良好な関係性を築くことにあります。

「自身と周囲との関係性を築くこと」は、身近な社会を基礎として、多様な考え方が存在する国際社会でも応用が可能です。単に言葉が話せるだけではなく、確固たる自身の考えを持ち、周囲と調和を取った上で、自身の考えを行動に移し、自身と周囲の関係性を築いていく人材こそが、FISの考える「International」な人材です。

7. 子どもたちのルール

「自分を認める・相手を認める・地球に優しく」

子どもたちが守るルールはたったひとつ。

普段からこの意味合いと、とことん向き合い、関わる人々と周囲の関係性を通じて人間性を豊かに育みます。

スクール内でのディスカッション（話し合い）でも、常にこの「考え」と「行動」が問われます。

その場において「自分を認める・相手を認める・地球に優しく」とは
どういうことか？

その結果、子どもたちがどんな結論（行動）を導き出すのか？

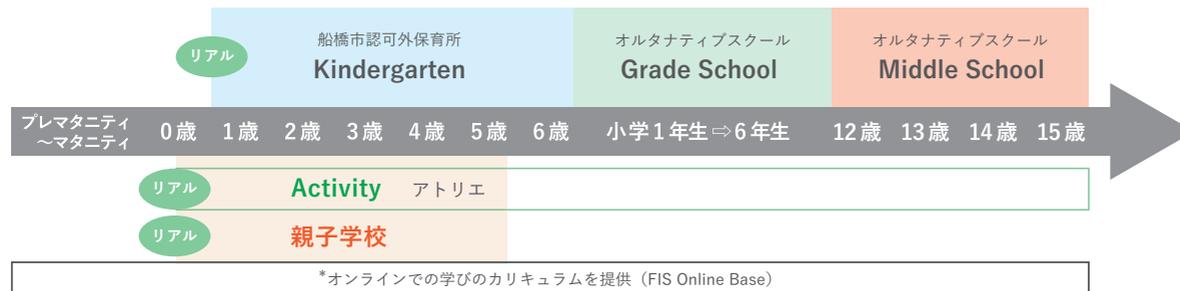
学校生活において、常にMission Statementで掲げている自己実現のための必要なElements（要素）が問われていきます。



8. プログラム全体像

FISでは、プレマタニティ・マタニティ～学童期までの一貫したプログラムを提供しています。子どもも、大人も子どもたちの成長発達に合わせ、リアル＆オンラインで学びを深めることが可能です。

◆NPO法人 Free+ International School



◆Global Family Field 合同会社

[幼少&学童期教育事業の提供] FISのカリキュラムは、すべてGFFが無償で提供しています
FIS保護者もGFFの学びの場を一部利用します(保護者向け勉強会)

9. プログラムの特徴

1. 学校と家庭の「一貫した教育」の確立

「学校」の学びを「家庭」で実践し、常に一貫した対応で子どもの成長をサポートします。

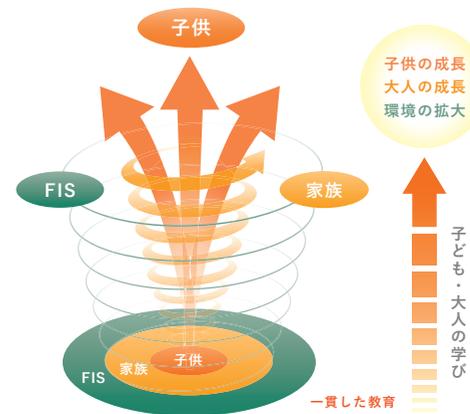
2. 子どもが学び、親が学び、先生が学ぶ

子どもだけでなく、子どもに関わる大人も子どもの成長に合わせて学びを深めていきます。※参考：大人の学びについて(P15)

3. リアルとオンラインの融合

「リアル」と「オンライン」の両方で「一貫した学びの場」を提供します。双方の良さを融合し、子ども & ご家族の成長を全面サポートします。

※オンラインスクールは全国から受講可能です



「リアルスクール」「オンラインスクール」

2 大人の学び

FISでは、子どもに関わる大人（保護者、スタッフ）も「常に学ぶ姿勢を持ち、自分自身を磨き、高めていくこと」をVisionに掲げています。子どもたちが成長していく上で、大人（家族）のサポートはなくてはなりません。そのため、FISではご家族向け勉強会を定期的で開催し、大人の「質」を高めるサポートをしています。

ご入学の際は、勉強会へのご参加が必須となります。

①～⑤は、Kindergarten・GradeSchool・Middle Schoolの保護者は無料でご利用いただけます。

① ご入学時事前動画 [アーカイブ]

FISが大切にしている教育の考え方、教育理念やカリキュラムについてなどの基本的内容についてお伝えしています。ご入学いただいた際に、皆様に必須でご覧いただきます。ご質問などあれば、いつでもお気軽にご質問いただけます。

② 生活基盤：生活ルーティンについて [アーカイブ視聴]

子どもと家族の生活ルーティンについて、何よりも大切に取り扱っています。学校での1日の流れを整えることはもちろんですが、ご家庭での生活は学校での生活に大きな影響を与えます。そのため、ご家庭内での生活ルーティンについても助言させていただくことがあります。

③ Hot Topic [グループ講座]

現在の時代の流れの中で捉える教育の在り方についてお伝えしています。また、私たち大人が、どんな在り方、考え方で子どもたちに接していくかもお伝えしていきます。月1～2回程度開催します。

④ Free Discussion [グループQA Time]

皆様が抱えている疑問、質問、課題について、グループコンサルティング形式で回答してまいります。月1～2回程度開催します。

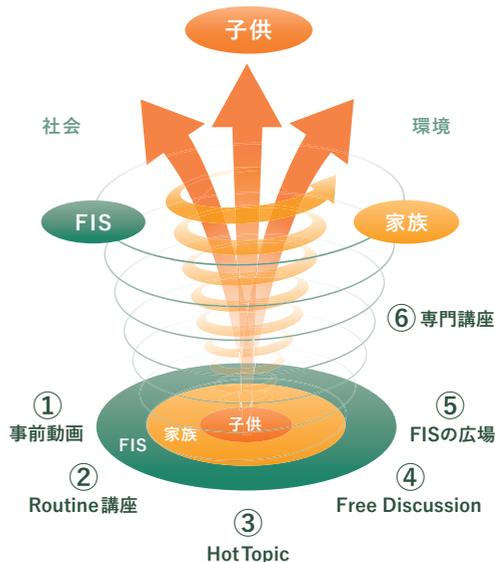
⑤ FISの広場 [個別予約 ご相談窓口]

どなたでもお気軽に、FISコンサルタントに個別でご相談いただける窓口です。指定の予約フォームよりご予約ください。1ヶ月に1回（30分）ご予約いただけます。

⑥ 専門講座・セッション [GFF提供] ※別料金

より学びを深めていかれたい方向けの専門講座や、個別セッションもご用意しております。詳細については、Global Family Field [GFF] 合同会社が提供するFOBカリキュラムをご確認ください。

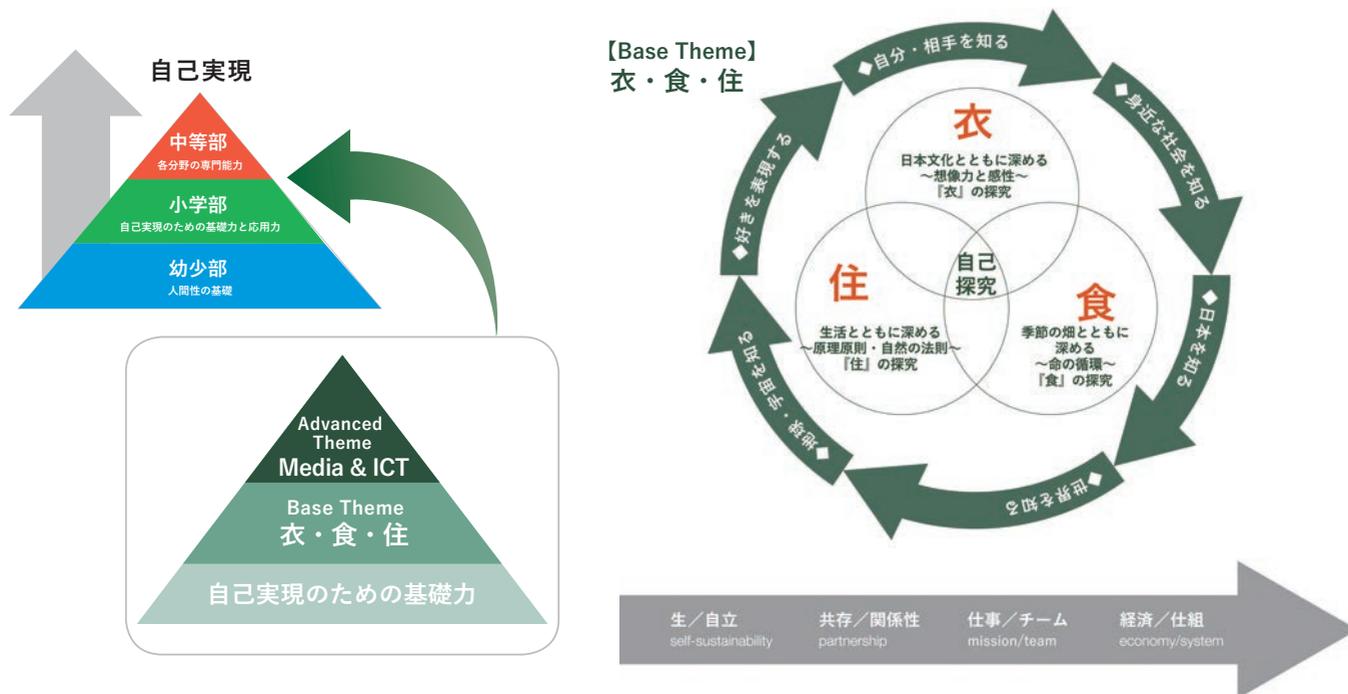
※上記プログラムの一部は、GFFの教育カリキュラムを利用しております



3 学びのフレームワーク

1. Base Theme [今を生きる力]

小学部6年間のテーマアクティビティを通じて「生きること」を探究します。私たち人間が生きていく上で欠くことのできない3つのテーマ「衣・食・住」の探究を基礎とし「今を生きる力」を培います。そして、これからの変わりゆく時代を生きる上で必要な力【Media & ICT & Project】の分野では「未来を創る力」の素地を培います。



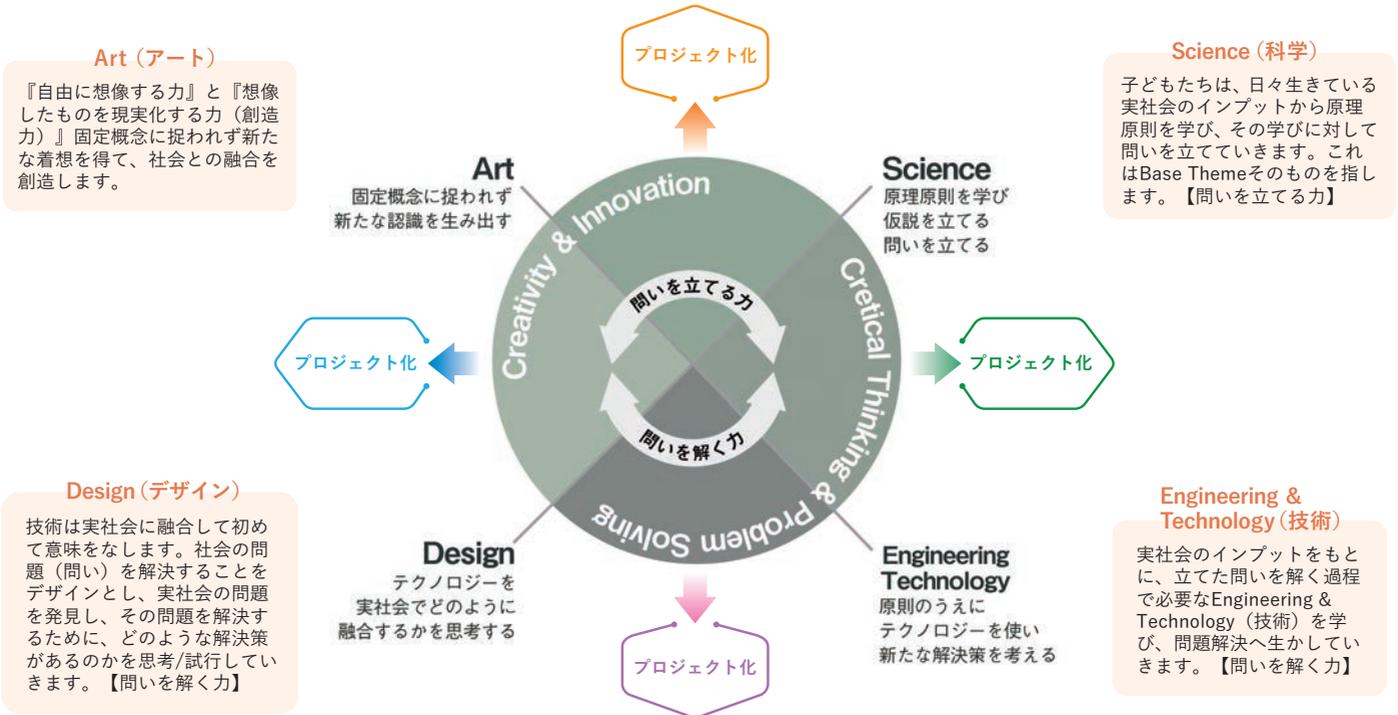
2. Advanced Theme [Media & ICT] & Project [未来を創る力]

Media & ICT & Project

小学部【Media & ICT】… 4つの分野から社会へアプローチし、それぞれの分野での素地を育みます。(参照*Neri Oxman : Krebs Cycle of Creativity)

中部部【Project】… 子どもたち自身が、各専門分野でテーマを設定し、プロジェクトベースで物事を進めていきます。

興味関心のあることをとことん探求し、アイデアを現実化していきます。(Base Themeも取り扱います)



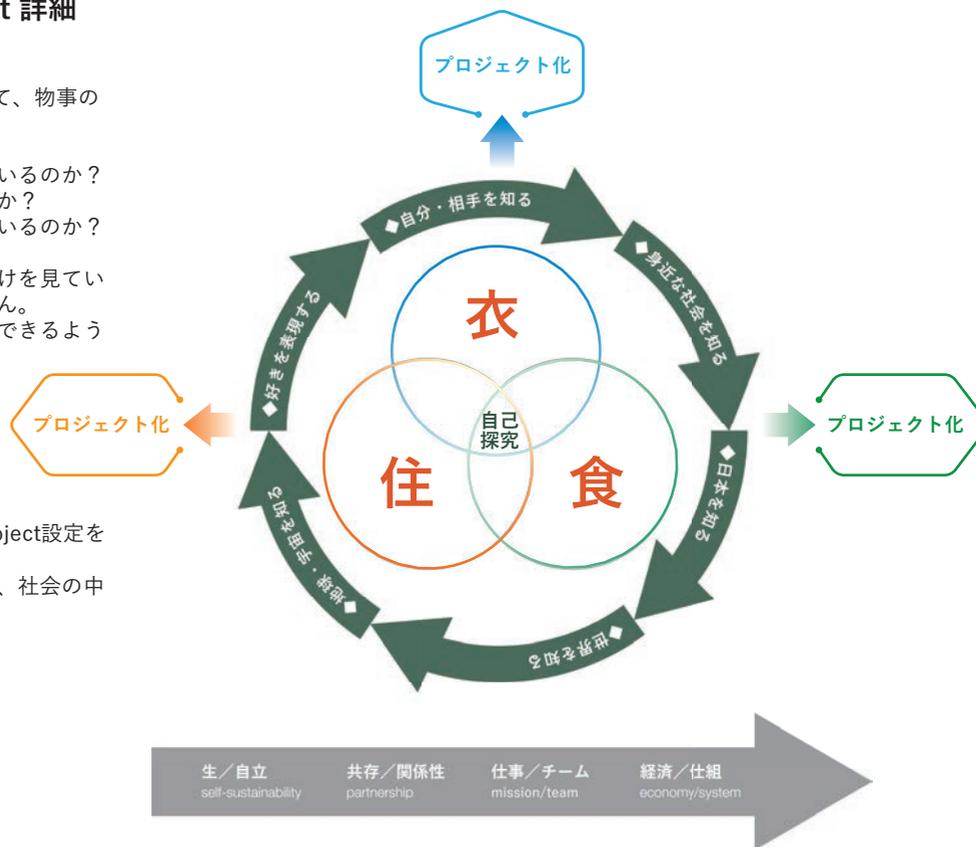
3.Theme Activity & Project 詳細

《小学部》

「衣・食・住」のBase Themeを通じて、物事の原理原則、成り立ちを学びます。

私たちの着ている服は、何からできているのか？
 食べている食べ物は、どこから来るのか？
 住んでいる家は、どのように作られているのか？

物で溢れる現代、出来上がったものだけを見ていても、物事の成り立ちは想像できません。
 成り立ちを知るからこそ、物事を創造できるようになるのです。



《中等部》

Base Themeの「衣・食・住」からProject設定を行うこともできます。
 自ら考えた、実現したいアイデアを、社会の中で実現していきます。

Base Theme & Project

Base Theme[衣・食・住]の探求内容は、以下の通りです。

《小学部》年間を通じて、[衣・食・住]それぞれのテーマについて、広く探求していきます。
毎年同じテーマを取り扱いながら、6年間を通じて、学年が上がるごとに探求内容が深まっていく構造です。

《中等部》小学部でBase Themeを深める過程で、特に興味関心を持った特定の分野についてプロジェクト化します。
プロジェクトのテーマは、下記の範囲を超えての設定も可能です。

衣

『衣』の探究

日本文化とともに深める ～想像力と感性～

「衣」×「伝統」×「歴史」から深める『自己の確立と自己表現』
衣への理解を深めながら、日本の伝統文化、歴史的背景への学びを深めます。
そして、個性を『衣』から辿り、真の自己表現を探究します。想像力と感情を養うプロセスです。

食

『食』の探究

季節の畑とともに深める ～命の循環～

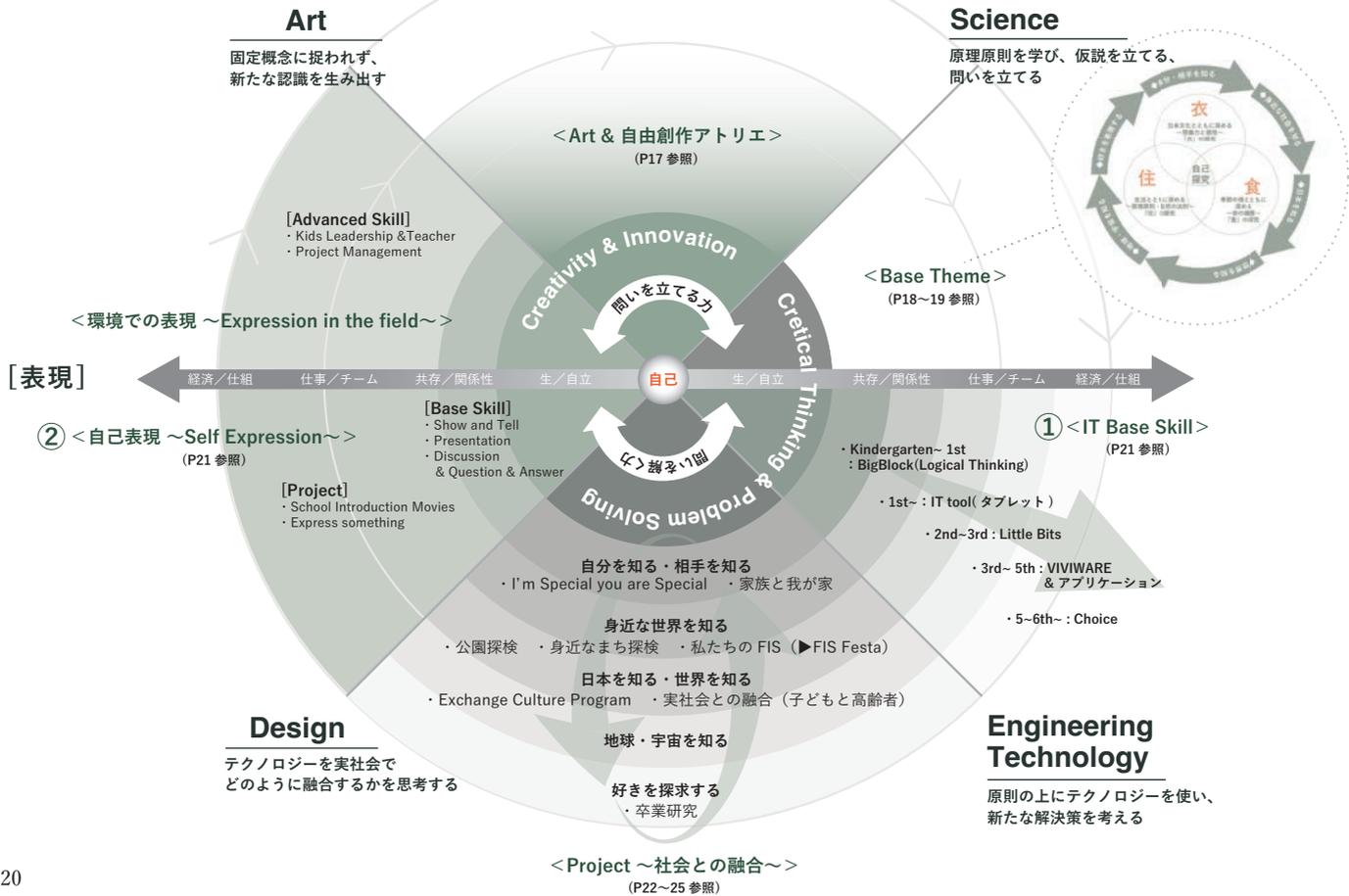
「生きること」＝「食べること」
畑の1年を通じて『食』への理解を深めます。
私たち人間は、すべて太陽からのエネルギーを基にし、それを地球が育むことにより成り立っています。
その恵に感謝しながら生きていくことを学びます。

住

『住』の探究

生活とともに深める ～原理原則・自然の法則～

幼少部から基礎にある『生活基盤』
小学部では、安心安全なおうちを飛び出し、外の世界で生きていく力を育みます。
私たちが地球上で生きていくとはどういうことなのか？6年間を通じて、原理原則・自然の法則を学び、
どんな環境下でも地球と共存し、生き抜いていくたくましさを育みます。



[表現]

① <IT Base Skill>

論理的思考のすべての原点は、遊びから育むことができます。FISでは、ITのBase Skillを、すべて遊びの中から体感し、体得していくことを目指しています。

Kinder~1st : [Logical Thinking] Big Block

Kindergartenから105ピースのBig Blockを採用しています。
[準備→イメージ(思考)→現実化(思考の実践)→改善/調整(繰り返し)→納める(終う)]のプロセスを105ピースのBig Blockで体得していきます。

2nd~3rd : [Hard] Little Bits

遊びの中から電子回路の基礎を学びます。作成した電子回路から、実社会での活用のヒントを創出します。

<https://www.littlebits-jp.com/>

3rd~5th : [Hard & Soft] VIVIWARE & アプリケーション

ソフトウェア&ハードウェアのコンビネーションを直感的に学びます。モノを動かすためのデータの流れや仕組みを視覚的に捉え構築し、ハードウェアによる現実世界へのアウトプットを体感します。

<https://viviware.com/>

5th~6th : Choice

これまで利用したアイテムを自由に選択し、組み合わせ、自由に創造します。

② <自己表現 ~Self Expression~>

[Base Skill]

Show and Tell

毎日、朝の会で自分が大切にしているものをお友達の前で簡単な英語で紹介する時間を設けています。

Presentation

授業の中で作り上げたものは、必ず希望する全員がプレゼンテーションをします。プレゼンテーションからは、子どもたちが何を受け取り、どんな気付きや感情が生まれたのかを観察します。

Discussion

FISでは、多数決やジャンケンで物事を決めません。常に話し合い、みんなが納得する第三案を探っていきます。もちろん、その場で結論が出ることはばかりではありません。子どもたちは、常に今に向き合い、今の課題をクリアしていくために、自分の意見を伝え、相手の意見を聞き、話合うことを習慣化しています。

Question and Answer

常に質疑応答の時間が設けられます。子どもたちは必ず質問をし、その質問に対して応えることを学びます。これはFISで常に問われていく「問いを立てる力」と「問いを解く力」の基礎となります。物事に興味関心を持ち、問いを立てる。相手からの問いに応える。これは人とのコミュニケーションの原点でもあります。

Middle School Project

《中等部》

[Project]

人生を変える3年間！自分の能力を最大限に発揮せよ！

子どもたちには、無限の可能性があります！
しかし、その能力を発揮できている子どもたちは、ごくわずか。誰もが、その能力を発揮できる可能性があるのにそれを発揮できずにいる！
私たちFISは、子どもたちの無限の可能性を掘出し、子どもたちの一生を変えるような体験を共に伴走します！！

◆プロジェクトの目的

- ①自分のやってみたいことを、とことん探求し、アイデアを現実化する体験をする
- ②日本国内だけではなく、世界を視野に入れた活動を行う



◆FISプロジェクトの特徴

1. 探求学習ベースでのプロジェクト遂行

探求学習ベースでプロジェクトを進めます。子どもたち自らが、プロジェクト遂行していく能力を高め実践していきます。

2. 海外を視野に入れたプロジェクト

本校では中学生から海外を視野に入れたプログラムを展開します。無数にある情報の中から、自分の将来を考えるタイミングが早くなっている時代だからこそ、早いうちに子どもたちが自分自身の無限の可能性を体感していくプログラムを提供します！

3. 人生を切り拓く年間カリキュラムの提供

子どもたちが将来と向き合い、今後進んでいく道を見出していくプロセスを伴走することを目的としています。心も身体も能力も、最も成長していくこの時期に、自分の人生と真正面から向き合い、サポートしてくれる大人の存在と共に、一貫した学びの場を提供し、子どもたちの人生に伴走します！

4. 子どもだけでなく大人も学ぶ

一般よりも低年齢で社会への挑戦に臨むには、親御さんのサポートが必須です。子どもたちの無限の可能性を引き出していくための親御さん向けのサポートも全力で行います。

5. 各界のプロのサポート

子どもたちにとっても、親御さんにとっても一般的な価値観を飛び越えた大きな挑戦です！そのため、各界のプロフェッショナルがサポートいたします！

Middle School Project

プロジェクトの活動フィールドは世界！

中等部では活動のフィールドがぐんと広がり、「社会そのもの」が学びの舞台となります。

小学部では、スクールを拠点に学びを深めつつ、週に1~2回のフィールドワークで外の世界に出かけていました。

中等部では、そのスタイルがさらに進化します。

これまでのように大人が年間カリキュラムを用意するのではなく、子どもたちが自分でテーマを設定し、行きたい場所や出会いたい人を選び、その場所で出会った師匠のような存在とともに、学びを深めていく。そんな「弟子入りスタイル」を取り入れていきます。プロジェクト遂行の過程で、FISスタッフや師匠と対話しながら、探究テーマを深め、子ども自身の持つアイデアを具現化する体験を共に積み重ねていきます。

《活動拠点(例)》



※活動拠点は、子どもたちと共に開拓していきます。

<社会との融合>

以下の流れは、[Base Theme](P16)、[Advanced Theme](P17) の、FISのカリキュラム全般に適用されます。

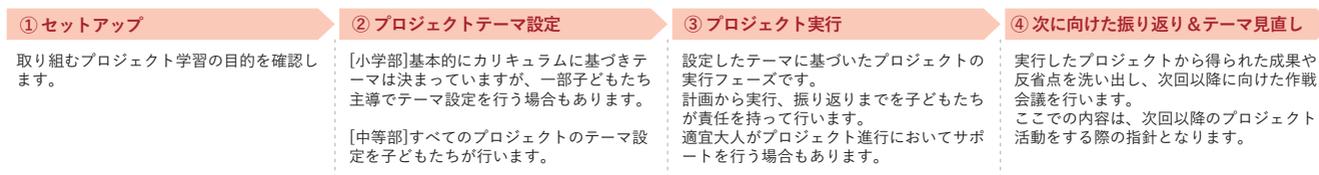
身近な世界から、少しずつ外の世界へと活動領域を広げながら、思考と活動の領域も広げていきます。
再び、自分に近い領域に戻ってきたときに、子どもたちはより成長した状態で、領域を見渡し、次の段階の役割を担っていきます。

《小学部》



<プロジェクトの流れ>

FISで取り組むプロジェクトは、大小関わらず、以下の流れで遂行します。

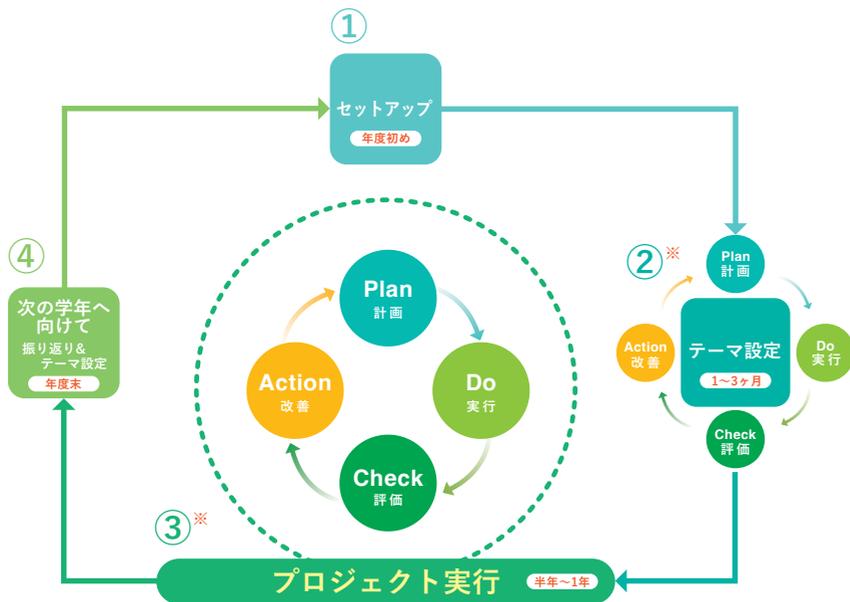


Middle School Project

< 中等部プロジェクトの流れ >

中等部では、1年かけて1つのテーマを探究します。

3年間を通じて、自分のやりたいことをとことん探求し、アイデアを現実化する体験を積み重ねていきます。



※ ②テーマ設定、③プロジェクト実行時は、サポートする大人と共に、常にPDCAサイクルを回していきます。子どもたちが、思考し、実践し、改善していけるよう伴走いたします。

①セットアップ [年度初め]

これから取り組むプロジェクト学習とはどんなものなのか。プロジェクトのテーマを設定する前段階として、プロジェクト学習に対する理解を深めます。

②テーマ設定 [1~3ヶ月]

プロジェクトのテーマ設定を行います。子どもたちが深く興味関心を寄せ、知りたい！挑戦してみたい！と、心が踊るテーマ設定を行います。プロジェクト遂行のパートナー選定、交渉、具体的な進行スケジュール等についても吟味します。

③プロジェクト実行 [半年~1年]

設定したテーマに基づいたプロジェクトの実行フェーズです。フィールドは日本全国、世界各地です！自身のテーマ設定に基づき探究を行います！

④次の学生へ向けて 振り返り & テーマ設定 [年度末]

実行したプロジェクトから得られた成果と反省点を洗い出し次年度に向けたテーマの見直しや再設定に役立てます。プロジェクトは同じものを継続しても構いませんし、新たなテーマを設定しても構いません。

4. 年間スケジュール

通常の学びとは別に、年間で以下のような予定がございます。

※毎年内容は異なりますので、詳細はスクールカレンダーをご参照ください

● 1 学期

4月：新年度開始！新年度目標設定

*入学&進級式、新プログラム開始、*保護者面談

5～6月：GW休暇

7～8月：夏休み：夏季プログラム（畑、海、合宿など）

● 2 学期

9月：新学期開始！

夏休みの課題→テーマアクティビティ、*保護者面談

10月：*授業参観

11月：*FIS Festa

12月：*年末クリスマスパーティ、*NPO総会、冬休み

● 3 学期

1月：*新年遠足山歩き、新学期、1年の目標

2月：テーマアクティビティ

3月：*卒園&卒業、1年のまとめ、春休み

*保護者参加イベント

◆通年アクティビティ

畑、調理実習、テーマアクティビティ、誕生日会、Field Trip など

◆保護者参加イベント（抜粋）

保護者面談

半期に1度（3～4月、7～9月）個別面談を行います。

子どもたちの学校での様子や、成長、次の期へ向けた課題等についてお伝えします。また、各ご家庭で抱えている課題等についてもお気軽にご相談ください。

授業参観

終日FISの授業を複数日公開するので、いつでも自由に参加可能です。授業終了後は保護者会を開催いたしますので、普段の疑問やお悩みなども持ち寄ることが可能です。

FIS Festa（FIS文化祭）

①FISのことを知ってもらう

②Festaに来てくれた人たちに楽しんでもらう

2つを目的として、子どもたちが企画から運営まですべてを担うFISの文化祭です。

当日は、保護者の方々にもサポートをお願いしておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

NPO総会

年1回12月に開催します。1年間の法人運営状況や事業内容等についてお伝えいたします。次年度の取り組みについてもご紹介いたしますので、会員の方は必ずご参加をお願いいたします。

5. (参考) FISと小学校学習指導要領の授業数比較 《小学部》

文部科学省「学校教育法施行規則に定める標準授業時数」とFISの授業時間数の比較です。一部、FISの時間数が足りない部分がありますが、すべてを教科ごとに区切ることは難しく、総合的な学習や、特別活動に該当する部分で取り扱っている場合もあります。

◆FISと小学校学習指導要領の授業数の比較

区分	1st Grade		2nd Grade		3rd Grade		4th Grade		5th Grade		6th Grade	
	FIS	文	FIS	文	FIS	文	FIS	文	FIS	文	FIS	文
国語	209	306	212	315	212	245	262	245	262	175	262	175
算数	120	136	120	175	120	175	162	175	162	175	162	175
社会					48	70	136	90	136	100	136	105
理科					145	90	145	105	145	105	145	105
生活	162	102	162	105								
音楽	62	68	76	70	76	60	26	60	26	50	26	50
図画工作	101	68	115	70	115	60	115	60	115	50	115	50
家庭					46		46		46	60	46	55
体育	201	102	201	105	201	105	201	105	201	90	201	90
道徳の授業時数	38	34	38	35	38	35	50	35	50	35	50	35
外国語活動	73		80		80	35	80	35				
外国語									94	70	94	70
総合的な学習の時間の授業時数 (IT含)					93	70	93	70	93	70	93	70
特別活動の授業時数 (Theme含)	40	34	107	35	107	35	155	35	155	35	155	35
総授業時数	1006	850	1111	910	1281	980	1471	1015	1485	1015	1485	1015
総時間	754.5	637.5	833.25	682.5	960.75	735	1103.25	761.25	1113.75	761.25	1113.75	761.25

※ 1コマ45分間相当として換算 (FISの1コマは45分間でないことがありますので相当時間で計算)

※ 教科は学習指導要領の教科に振り分けて換算

※ 毎年カリキュラムを調整しますので、時間数も前後する可能性があります

◎ 中部は、カリキュラムが大きく異なりますので学習指導要領との比較は出しておりません

4 Daily Program

1. Kindergarten

勇気をもって自分の考えを伝え、
行動をおこしていける子どもを育てる

親子学校を経て、子どもと家族の信頼関係、及び、FISと子ども・ご家族との信頼関係ができた上で、Kindergartenへ移行します。すべては“安心感”をつくることから始まります。

◆Kindergarten で学ぶこと

1. 自立

親子学級で築いた「学校と家庭での一貫した教育のサイクル」のもと、学校生活における子どものお仕事（＝役割や遊び）を通じて、成長に応じた子どもの自立を促していきます。

2. 社会性・感情性

「自分を大切にする」その上で初めて「自分の周囲との関わり」を紹介します。「自分を大切にすることができれば、おのずと自分への自信につながります。自分の“感情”を受け止め、整理し、相手に“伝える力”を育てていきます。

3. 言葉・認知（思考力・応用力・適応力・創造性・表現力など）

自信を持つと、自分の考えや感じたことなどを言葉にしていきます。「言葉」は、効果的なコミュニケーションや、周囲との関係性を広げるために非常に重要な役割を果たします。Kindergartenでは、母国語をベースとした思考力と、関係性を紡ぐ言葉の獲得に力を入れます。

◆Daily Routine Sample

FISでは、子どもたちの『ルーティン』を大切にしています。すべての子どもに同じ目標を与えるのではなく、子どもを観察し、それぞれの子どもに合った目標設定を行います。

開始時間	終了時間	経過(m)	セクション
	9:10		Morning Job 朝のお仕事（1日の準備）
9:10	9:15	5	Goodmorning & Songs 朝の歌 & 朝の挨拶
9:15	9:20	5	Attendance 出席確認/人数確認（数の概念）
9:20	9:35	15	Circle Time カレンダー（曜日・日付・月・数）天気
9:35	9:45	10	Story Time 今日のストーリー（日本語・English）
9:45	10:00	15	Show and Tell(プレゼンテーション)
10:00	10:10	10	音読
10:10	10:30	20	Small Activity [Mon] 塗り絵/[Thu] Cooking/[Fri] Art
10:30	10:35	5	Toilet & Parkprep Lineup
10:35	10:40	5	Transition Go Park Line up
10:40	11:30	50	Park
11:30	11:35	5	Go School
11:35	11:40	5	Toilet & Wash Hands Lunch Prep
11:40	12:00	20	Lunch
12:00	12:05	5	Lunch Clean Up
12:05	12:50	45	Daily Activity:[Mon] 音読&Block/[Tue] Kitchen [Thu] Clean up Lunch/[Fri] Art
12:50	12:55	5	News Time 1日の振り返り
12:55	12:56	1	Good bye Song
12:56	13:00	4	Go Home Job Go Home

2. Grade School

Grade・Middle School では、次のような流れで1日を過ごします。

◆Weekly Routine Grade (sample)

開始時間	終了時間	経過(m)		Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
8:30	9:10	40		1.挨拶&出席 2.1日のスケジュール確認 3.外国語 (English/German/Franch) 4. Triangle Numbers 5. 文字・漢字			1.挨拶&出席 2.1日のスケジュール確認 3.外国語 (English/German/Franch) 4. Triangle Numbers 5. 文字・漢字	
9:10	9:40	30	MC	1. Goodmorning & Songs 2. Attendance 3. Calender 4. Weather 5. Story Time			1. Goodmorning & Songs 2. Attendance 3. Calender 4. Weather 5. Story Time	
9:40	10:00	20		6. Show and Tell 7. 音読			6. Show and Tell 7. 音読	
10:00	10:20	20	①	塗り絵	文字	Field Trip & Theme	仕込み	Art
10:20	10:30	10		Transition			Transition	
10:30	11:20	50	②	Park	Park		Park	
11:20	11:30	10		Transition			Transition	
11:30	11:35	5	Lunch	Lunch Prep			Cooking	Lunch Prep
11:35	12:00	25		Lunch			Lunch	
12:00	13:00	60	③	日本語 & Play Center	Science		Lunch & Clean up	Art
13:00	13:10	10		break			break	
13:10	14:10	60	④	どんぐり算数	Exchange Culture Program		どんぐり算数	Art
14:10	14:20	10		Refraction			Refraction	
14:20	14:30	10	AC	Clean UP		Clean UP		
14:30	14:40	10		Go home Job		Go home Job		

3. Middle School

◆Weekly Routine Middle (sample)

開始時間	終了時間	経過(m)		Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	
8:30	9:30	60		1.挨拶&出席 2.スケジュール確認 3.外国語 4.個人課題			1.挨拶&出席 2.スケジュール確認 3.外国語 4.個人課題		
9:30	10:00	30	MC	音読			音読		
10:00	10:20	20	①	塗り絵			塗り絵		
10:20	10:30	10		Transition		Transition		Morning Activities	
10:30	11:20	50	②	Park			Park		
11:20	11:30	10		Transition		Transition		Transition	
11:30	11:35	5	Lunch	Lunch Prep	Project*	Project*	Lunch Prep	Project*	
11:35	11:55	20		Lunch			Lunch		
11:55	12:00	5		Transition			Transition		
12:00	13:00	60	③	日本語			日本語		
13:00	13:15	15		break		break		break	
13:15	14:15	60	④	歴史			歴史	Project Review	
14:15	14:30	15		break		break		1週間の 振り返りと 翌週移行の プランニング 見直し	
14:30	15:00	30	④	個人の課題 ・Project Review ・主要5教科など	English or Science		個人の課題 ・Project Review ・主要5教科など		
15:00	15:10	10		Refraction		Refraction		Refraction	
15:10	15:20	10		Clean UP		Clean UP		Clean UP	
15:20	15:30	10		Go home Job		Go home Job		Go home Job	

*Projectの時間帯は、各自定めたProject Themeに基づいての活動となります。
スクールに登校する場合がありますし、Project実施先での活動や、自宅作業となる場合もあります。

4. 自己実現のための基礎力

FISでは、日々の学びの中で、自己実現に必要な基礎力を培っていきます。自己実現に必要な基礎力は2種類に分類しています。
※概念としては、Domain[学びの領域/発達領域]で定義しています

[器]

子どもたちを形成する器そのもの[身体][心(感情)][脳]が該当します。

◆身体

人は身体がなければ存在できません。そのため、FISでは身体と向き合うこと（身体への理解を深めること）を、非常に大切にしています。自分自身の身体はどうなっているのか？自分自身は何者なのか？身体と向き合う時間を通じて、自分自身への理解を深め、他者との違いも理解していきます。性教育の学びへもつながります。

◆心（感情）

人には心があり、感情の生き物です。この[心(感情)]についても、非常に大切に扱います。【自分を認める・相手を認める】というルールは、自分自身、そして仲間の感情に向き合わない限りは達成されません。子どもたちは、日々体験する様々な事象と、それに伴う感情に向き合っています。何よりも、目の前の事象と感情に向き合うことが、子どもたちの心を大切にすることにつながります。

◆脳

FISでは、子どもたちの思考力（視考力）にコミットしています。そのため、脳にはできる限りの余白を残し、思考力（視考力）を育てることに使って欲しいと考えています。
臨界期（12歳）までの脳は、発達途上です。脳への過度な負荷は余白をなくします。過度な負荷とは、主にテレビゲームやYoutube等が大きく影響します。FISでは、脳を守るために、**テレビゲームや目的外のYoutube禁止を推奨しています**。守っていただきたいルールです。

[基礎科目]《小学部》

一般的な「科目」の概念とは異なりますが、以下のような区切りで学びを深めていきます。

◆日本語

日本人である私たちの第一探究言語（母国語）は日本語です。FISでは、母国語の獲得を非常に大切に取扱っています。日本語力はすべての学力（学ぶ力）の土台であり、日本語力を高めることが、すべての学力を向上することにつながります。
授業は、松永暢史氏の提唱する古典音読*を中心として進めて子どもたちの発達のタイミングに合わせた、学びの環境を提供していきます。*参考：https://matsunaganobufumi.edorg.jp/

1. 聞く：子どもたちが情報(よい音)を溜めていくフェーズです
2. 話す：溜まった音を吐き出すフェーズです
美しい日本語のアウトプットをサポートします
3. 読む：音読教材、Story Time、新聞、読書の時間を通じて
読む力を育みます
4. 書く：音と文字の連携から始まり、最終的には作文、
論文等の文章を作り上げます

◆外国語

多言語環境での安心感をつくり、効果的に言語獲得を行うため「生活ルーティン」をベースとした言語習得アプローチを行います。英語の読み書きの習得を目的とせず、子どもたちの外国語へ対する「感性」「感度」を高め、多言語・異文化・多様性への理解・適応の素地をつくることを目的としています。
スクールには常時2名の外国人インターン生をアサインしており、子どもたちが常に外国語に触れられる機会を設けております。

◆文字

ひらがな・カタカナ・漢字・書写（硬筆・毛筆）において、文字に特化して学びを深めていきます。合わせて文字の意味合いと、言葉との繋がりも深めていきます。

◆算数

「どんぐり算数」を導入しています。
糸山泰造氏が独自に開発した算数文章問題を継続的に解いていくことで人生を楽しむための「考える力」を身につける「無理なく無駄なく効果的な学習方法」です。子どもが自分なりの絵図を描きながら答えを導きだすことを目的とするのが特徴です。「考える力」の育成には問題を解く過程が重要であり、問題の答えが出なくても出した答えが間違っているとしてもよしとします。問題を解こうとする子どもを傍の大人は口を出さずに見守ります。週に2コマ（文章題2問）取り組みます。

◆体育 [小学部～中等部]

毎日、体育（身体を育む時間）を設けており、全力で外遊びを行います。トレーニングをして、筋力を高めていくようなものとは異なり、自分自身の体と向き合い、体が潜在的に持っている特性に磨きをかけていくものです。

◆Art [小学部～中等部]

子どもたちの誰もが持っている『自由に想像する力』と『想像したものを現実化する力（創造力）』を最大限に発揮していく環境&時間を提供します。子どもたちの理解を深めていくための学びのテーマ×Artの授業も行います。

◆音楽 [小学部～中等部]

授業は、提携の音楽療法施設[UNICO]にて行います。UNICOでは、主に即興演奏を用いたクリエイティブ音楽療法を行います。
音楽に子どもを合わせるのではなく、セラピストが子どもと一緒に音楽を創作します。
決められたものを教えられる体験ではなく、音楽を通じて、自らが創り出す喜びを体感していきます。

NPO法人ユニクユニバース
<https://uniunico.com/>

◆テーマ学習 ～生きることの探究～

Base Theme 【衣・食・住】～今を生きる力～
子どもたちが今を生き抜いていくために必要な変わらない力＝「今を生きる力」を、【衣・食・住】のテーマを通じて探究していきます。

Advanced Theme 【Media & ICT】～未来を創る力～
テーマ学習で培う「今を生きる力」の土台の上に培われる、「未来を創る力」を【Media & ICT】の分野を中心に探究していきます。
※生活、理科、社会に該当する科目は、テーマ学習に含まれます

[科目]《小学部高学年～中等部》

◆リベラルアーツ教育

中等部では【リベラルアーツ教育】をすべての学びの土台としています。

リベラルアーツとは、文学・哲学・歴史・科学・芸術など、多様な分野を横断的に学び、ものごとを多角的に考える力を養う学び方です。

FIS中等部では"日本語"（母国語）でこれらの学びを深めていきます。日本語は、ただの言葉ではなく、私たち日本人の考え方や価値観を形づくる土台です。

文章を読み解く力、心を動かす表現力、相手を理解するための聞く力——これらすべては、確かな言語能力から生まれます。

日本語を深く学び、世界を広く見渡す視野。

これからの時代をしなやかに生き抜く人材を育てていきます。

◆日本語

すべての科目の基礎となります。

主に、以下の4軸で学びを深めていきます。

1. 現代情報へのリーチ（近現代文学、新聞等）

主に、近現代の読み物を中心として学びを深めていきます。新聞も日々取り扱います。

一面はもちろん、政治・経済・社説・技術等も読み深め、現代の事情を把握しながら、語彙も増やします。

テーマに合わせて、大人を交えたディスカッション等も行います。

2. 古文・漢文の会読

課題図書を設定し、古文・漢文の会読を進めます。

[課題図書]

- ・諸子百家（論語、老子、韓非子ほか）
- ・旧約聖書、新約聖書
- ・ギリシャ哲学
- ・仏教（ブツダのことは、臨済録、般若心経ほか）

3. 日本語と外国語の特性理解

言葉は文化です。日本語の特徴を理解することは日本自体への理解にも繋がります。

また、外国語から見た日本語の特性についても理解します。

これは、大きな枠での文法理解に繋がります。

言語の文法構造を理解することは、外国語の文法構造の理解に繋がります。

4. 作文

日記、物語、報告書、論文、プレゼン資料等 文章全般の作成を行います。

これまで積み上げてきた音や語彙を元に、経験、体験、イメージを文章にして表現します。

これは、外国語で文章を書く際の基礎にもなります。

日本語での作文から、英語での作文への転換なども行っています。

◆英語

[小学部高学年～中部部]

全身反応教授法 (TPR)

小学部前半で積み重ねてきた英語の"音"を、体系立てて体感覚(動作)に落とししていきます。「聞いて」「感じて」身体を「動かす」ことで英語を意味のある音として理解し、コミュニケーションのツールとして習得していきます。

基本的な日常会話レベルまで理解可能になります。この段階では、読み書きは行いません。

[中学校2年生～3年生]

これまで"音"で入っている英語を、文法の観点から紐解きます。

文法理解の土台は、日本語にあります。

日本語で伝えたいことを英語で伝えるといった、少し専門性の高い会話や文章の作成へも挑戦していきます。

◆算数

小学校6年間で学ぶ内容については、継続して「どんぐり算数」に取り組みます。

◆数学

中学校学習指導要領にて設定されている内容は、一般教材を利用し、自主学習にて学びを深めます。

◆理科実験

月に1回程度、テーマごとの理科実験を行います。

生物・地学・物理・化学の分野から満遍なくテーマを取り入れます。

◆歴史

斉藤武夫先生の提唱される『日本が好きになる!歴史授業』をもとに追試します。

斉藤武夫先生ブログ：<https://www.saitotakeo.com/>

歴史人物学習館：<https://rekijin.net/>

使用教科書：株式会社自由社 検定合格 新しい歴史教科書

◆公民

使用教科書：市販本 検定合格 新しい公民教科書

[基礎科目]

中学校学習指導要領にて設定されている主要五教科(日本語、英語、算数、理科、社会)は、一般教材を利用し各自で学びを深めます。進度は、それぞれの個人に併せて進めていきますので、学年による学びの範囲の制限はもうけません。学びたいだけ学びを進めていくことが可能で、進捗については、随時スタッフがサポートしていきます。

※受験対策について…高校受験対策のための学びは、授業では直接的には取り扱わず、一般教材を使い行います。

[評価の考え方]

FISでは日々の学びを通じて子どもたちの情報を集めています。集めた情報からMission Statement (P9-10)のElementsに基づき、子どもたちの評価(=子どもたちのことを知るための作業)を行います。

5 スクール生活をスタートするにあたり

1. スクールでの生活について

月曜日～金曜日

・ Kindergarten	9：10～13：00
・ 1～2年生	9：10～14：00
・ 3～4年生	8：30～14：30
・ 5～6年生	8：30～15：00
After School	授業終了後～16：30

◆スクールでの活動時間

- 上記は目安時間で活動によって前後する場合があります
- 帰宅時間は子どもと日々確認をしてください
- 校外での学習・活動や行事が必要な場合、事前に子どもと保護者に予定を告知した上で、終業時間を超える場合があります
- 週末や祝日にスクール行事等が開催されることがあります
(子どもたちが週末に登校する場合は基本的に平日に振替休日を設けます)

◆After School プログラムについて

スクール終了後のプログラムです。別途ご契約が必要となります。

- 時間：スクール終了後～16：30
- 利用日：週1回～利用可能
- 場所：スクール内、もしくは提携施設
- 利用料：別途提示（割引あり）

※スクール外活動の場合は帰宅時間が前後する場合があります
※スケジュールは別途提示します
※保育利用もこちらが該当します

◆持ち物について

自分の持ち物は自身で責任をもって管理します。スクールでは子どもたちが持ってきた物に対する紛失や破損等の責任を負いません。また、スクール活動において妨げになると判断される場合はスタッフがお預かりすることがあります。

◆服装について

常に動きやすく汚れてもよい服や靴で通学してください。体育やアート、書道等、基本的にどの活動も通学服で行います。夏は体育などで汗をかくので、毎日着替えをお持ちいただくことをお勧めします。スクールに着替えを置いておくことも可能です。

◆昼食・おやつについて

弁当と水筒、おやつを持参することを基本とします。食事やおやつは子ども達の身体を作っていきますので、できる限り体に優しいものをお選びください。

※おやつは特定の課題へ取り組み時、After Schoolに参加する場合のみ食べることが可能です

◆校外活動について

外出することが多くあります。その際は、保護者の方々にもお知らせしますが、先回りせず、子どもたち自身が自律的に行動できるようサポートをいただくようお願いいたします。

- 集合・解散に係る事項（時間・場所等）、および持ち物は、必ず子どもと一緒に確認してください
- 集合・解散場所が定められている場合、原則として途中合流や途中下車は認めません
- 移動の際は、ICカード（パスモもしくはスイカ）を利用します。残金の確認をお願いします
- 引率スタッフの移動や宿泊、その他活動に係る費用は、按分して精算します

◆通学について

原則は、公共交通機関をご利用ください。

通学時の安全管理および送迎は、各ご家庭の責任のもとでご対応をお願いします。通学中の事故やトラブルにつきましては、スクール保険の適用外となりますので、あらかじめご了承ください。

※駐車場のご用意はありません

※子ども一人で通学する場合は、通学時のトラブル対応含め事前にご家庭で十分に確認いただき、安全確保に努めてください。

2. 学びの準備品

子どもたちが自己管理できるよう持ち物にはすべてご記名ください。消耗品に関しては、お子さんと一緒に確認を行い、適宜補充してくださるようお願いいたします。

◆ご家庭にてご用意いただくもの

- 通学用バッグ（A4ファイルが入るサイズの背負えるタイプ）

※校外学習や合宿等で使用するためバックパックが便利です

- お弁当箱
- 水筒
- 筆箱
- 鉛筆（Bもしくは2B）数本…普段用
- 赤鉛筆
- 消しゴム
- 色鉛筆（12色）
- 体育用装備…運動に適した服装、運動靴

※必要に応じて着替えを用意してください

- 水泳具一式（水着、タオル、水泳帽、ゴーグル、ライフジャケット）

※夏期プログラムにて使用

教材に関しては、学年やクラス、活動が行われる時期に合わせてご用意いただきます。スクールにてまとめて購入できる場合もありますので、詳細はご連絡させていただきます。

3. 欠席・遅刻・早退について

- 当日の欠席・遅刻は8時までに、早退も早めにご連絡ください
- 休日前や当日の連絡になる場合は、連絡用ラインで直接スタッフにお伝えください
- 感染症の病気の疑いがある場合には、スクールに報告し医師の診断を受けてください
- 他の生徒への感染の可能性がある場合は、通学再開に際しては医師の指示に従ってください

◆指導要録上の出席扱いについて

文部科学省より各都道府県教育委員会へ宛てた下記通知をご参照ください。「不登校児童生徒への支援の在り方について」令和元年10月25日：文部科学省

4. 通学定期について

民間施設に通う生徒達には、公共の交通機関が「実習用通学定期乗車券制度」を適用し学割定期券を発行してくれます。そのためには「通学証明書」を発行してもらう必要があります（要公印）。「通学証明書」の発行については、行政から通知・指導が出されていますが、最終的には学校長の裁量によりますので、詳細は各校へお問い合わせください。

5. スクール発行の書類および家庭からの提出書類

◆スクール発行の書類について

「出席証明書」

小学校事情に合わせて出席証明書の提出が必要な場合は対応いたします。提出時期に合わせて都度スクールに要請してください。その他の対応が必要な場合はご相談ください。

◆その他

その他必要に応じて、書類を提出していただくことがあります。

6. 情報共有の仕組み

スクールからの情報発信としては、以下の方法を採用し、保護者および一般の方々に向けた情報共有をはかっています。各種登録をお願いします。

《一般公開/ウェブサイト及びSNS》

- A. 公式ホームページ
- B. FOBホームページ
- C. Instagram
- D. FIS公式Lineグループ

《スクール内公開》

- E. FISグループ全体ライン
- F. Storypark [SP]
- G. Storypark Community Post 通知
- H. スクールスケジュール*Google カレンダー
- I. FIS連絡用公式ライン
- J. Notion

A. 公式ホームページ

<https://free-is.org/>
<https://free-is.org/grade/>
<https://free-is.org/middle/>

一般に公開できる情報の発信と共有の場。スクール概要から学びの内容、日々の活動、子どもたちの様子を伝えています。スクールの全体像をお伝えするサイトです。

B. FIS Online Base ホームページ

<https://free-onlinebase.com/>

Global Family Filed合同会社が主催するオンラインスクールのサイトです。オンラインで提供されているコンテンツの詳細が掲載されてます。

C. Instagram

https://www.instagram.com/free_international_school

日々子どもの活動やスクール行事について情報発信しています。広報活動を目的とした位置づけですが、学びの様子も公開しますので、ぜひブックマークに追加してください。

D. FIS公式Lineグループ

<https://lin.ee/ZVdpST0M>

月に1回程度、一般公開のイベントやオンラインセミナーのご案内等を配信します。FISにご興味ある方へご紹介をお願いいたします。

※必ずご登録をお願いします。不明点があればお問い合わせください



《スクール内公開》

以下は、スクール内の情報共有の仕組みです。
ご入学後に必ずご登録をお願いします。

E. FISグループ全体ライン

[全体連絡用]

イベントやオンライン勉強会等のアナウンス、各種リマインドなどの全体通知を行います。

F. Storypark [SP]

<http://storypark.jp>

学びのストーリーを写真や映像、コメントと共に学校と各家庭とタイムリーにシェアしています。日々のスクールでの活動記録としても活用しています。

G. Storypark Community Post通知

イベントや災害時等におけるスクールからの情報を優先で告知します。

※Announcement通知メールの配信やプッシュ通知は、ご家庭にて適宜設定してください

PC : トップページ(ログイン)▶メインメニュー「Community」

スマホアプリ : 「Community」もしくは「Conversation」

H. スクールスケジュール*Google カレンダー

スクールのスケジュールを公開しています。

※FOBスケジュールはNotionで公開されています

- ・ Grade school
- ・ アトリエ
- ・ Kindergarten
- ・ Online勉強会
- ・ Middle school
- ・ After school

I. FIS連絡用公式ライン

①リアルスクールの出欠連絡

出欠席の連絡はこちらをお願いします。現場スタッフが共有しています。

②帰宅時連絡用

帰宅時や、郊外活動からの帰宅時間の連絡に使用します。

※ご入学時に各自ご登録をいただきます

J. Notion

①講座録画管理

各ご契約コースごとの録画映像を管理していますので、そちらから録画をご覧ください。

②FOB スケジュール公開

7. 子どもの健康に関する方針

スクールで子どもの具合がよくない場合、様子によって保護者、もしくはそれに代わる方に迎えに来ていただくことがあります。

子どもの病気の症状が重い場合や、感染症の疑いがある場合は、ただちにスクールへお知らせください。そして医師の診断に従い、完治するまで登校は控えてください。

※服用している薬がある、また、副作用を伴うことがある場合や、スクールにおける活動への参加が制限される場合は、その旨スクールへお知らせください

◆健康診断について

在籍する小学校に相談の上、学校指定の病院にて受診することをお勧めしています。スクールとして健康診断は行わず、個人的に受診していただきます。

◆薬の預かりについて

原則として預かることはしません。基本的に、子どもが自分で管理できる範囲での対応をお願いします。

◆学校感染症に伴う出席停止について

学校保健法により、学校感染症にかかった場合は「出席停止」となり、欠席扱いになりません。ただし、病気が治り通学可能になった場合には、病名および出席停止期間の記載されている通学許可書（治療診断書）もしくは医師の診断書を提出してください。

◆学校感染症罹患による出席停止

学校感染症と診断された場合は、医師の通学許可が出るまで登校することができません。治療証明書もしくは医師の診断書（期間を記載してもらうこと）の提出があれば、発病から通学許可が出るまでの期間を公欠の扱いとします。

※参考：「学校感染症と出席停止の基準」

出席停止＝出席扱いとなるには医師の診断が必要で、その際は、速やかにその旨をスクールに連絡、診断名および症状・発症日をお知らせください。

出席停止解除＝通学するためには、原則として治療証明書の提出が必要です。

◆インフルエンザについて

発症後下記2つの条件を両方満たしていると保護者が判断した場合、その翌日より通学が許可され、医師による治療証明書の提出は不要となります。

※その旨を事前に文書（メール含）にてスクールに連絡し認められた場合に限りです

- ・解熱後2日が経過していること
- ・発症後5日が経過していること

【注意】発症とは発熱の症状が現れたことを指します。日数の数え方は、発熱が始まった日は含まず、翌日から発症第1日目と考えます。

◆新型コロナウイルス感染症について

スクールの対応としては、該当時点での船橋市の方針に従うこととなります。

また、各ご家庭で感染者が出た場合、濃厚接触者に該当した場合には、お住まいの各自治体の指示に従い、状況をスクールまでご報告ください。その上で、対応を判断いたします。

◆校内でのケガ・病気について

スクール内では、ケガや事故が起こらぬようスタッフは最善の注意を払っていますが、万一起きた場合、スクールにて応急手当てを施すことがあります。また、ケガの程度や子どもの様子によっては、保護者の方に連絡をとり判断を仰ぎますが、保護者への連絡がとれない場合は、スクールの判断にて病院へ連れていくことがあります。日頃は保険証を預かることはしないため、その際の費用はスクールにて立て替えますが、その後のケアや通院に関しては、ご家庭にて判断をお願いいたします。

8. 個人情報の取り扱い

Free+ International School が取得する個人情報について、以下の通り取り扱い致します。

※SNS等にお顔出しNGの場合には、事前にスタッフまでお伝えください

◆個人情報の範囲

個人情報とは、氏名、生年月日、住所、電話番号、授業中の写真、個人の作品など、本人及び保護者に帰属し、また本人を特定できるすべての情報を指します。

◆個人情報の利用目的

- ①写真について：学校紹介、授業紹介、オープンハウス（体験授業）の開催の告知のため
- ②写真以外の情報：認可外保育所運営、オルタナティブスクール運営、生徒管理、授業準備、アレルギーなどの本人の健康、安全面を職員が情報を把握するため。季節ごとに開催されるプログラムのご案内等

◆インターネット上への情報公開について

授業中に撮影した写真、参加者の発言等は、インターネット上（関連ホームページ、Instagram等）に公開する可能性があります。但し、個人の名前等を公開することはなく「②個人情報の利用目的」に準じます。

◆緊急時の必要者への個人情報提供について

次の場合はご本人の同意なく必要者に個人情報を提供する場合がございます。

- (1) 法令に基づく場合
- (2) 人の生命、身体または財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得られないとき
- (3) 子どもの健全な育成の向上のために必要がある場合、本人の同意が得られないとき
- (4) 国の機関、地方公共団体またはその委託を受けた団体が法令の定める事務を遂行するにあたり情報開示を求められた場合

9. ご契約について

◆契約期間

ご契約期間は、基本的には4月から翌年3月までとなります。5月以降にご契約開始の場合も同様に、契約期間は、次の3月までとなります。3月までに、翌年度以降のご契約について確認させていただきます。なお、ご入金後の解約および返金は一切ありませんので、ご了承ください。

◆休学・退学について

ご契約満了時にお受けいたします。やむを得ない場合に限り、希望日の1ヶ月前までにご連絡いただいた場合に、手続きを行います。

休会是最長1年間です。休会期間中はお月謝等の費用は一切かかりません。1年間の休会后、復帰のご連絡がない場合には自動退会となります。なお、休会の場合には、以下の注意事項がございますので、事前にご了承をお願いいたします。

[注意事項]

- ・休会はお席の確保を保証するものではありません。休会中に定員が満席になった場合は、復帰をお断りする可能性もございます
- ・復帰される場合のお月謝や諸経費、通学日程などは復帰時点での規定に準じます。休会時とは異なる可能性がございます
- ・1年を超えた後、復帰される場合は入学金等の必要経費が再度必要です

◆重要事項の同意について

スクールガイドの内容について、ご説明をさせていただきました上で、ご入学時のご契約書捺印時点で同意いただいたことといたします。何か不明点などございましたら、いつでもお気軽にお問い合わせください。

10. 災害発生時の対応

◆災害発生時の基本ポリシー

スクール内・外に関わらず、スクールのスタッフと子どもたちが一緒にいる場合には、スタッフの指示によって身の安全を確保することとしますが、通学時や、何らかの事情がある場合には、自分だけで判断しなくてはならないこともあり得ます。

子ども自ら判断をしなくてはならない時の基本ポリシーは、「自分の身の安全を確保すること」とします。また、スクールとして判断をする際の基本ポリシーは、「子どもたちの身の安全を確保すること」とします。

◆災害発生時（災害発生後）の意思決定

災害発生時は、原則としてスクールのスタッフの指示に従い行動をします。なお緊急時の意思決定は、以下の優先順位で行うものとします。また災害発生後の対応策の意思決定も同様とします。

- 第一意思決定者：理事長
- 第二意思決定者：現場責任者

第一意思決定者が不在であったり連絡が取れない場合、第二意思決定者は第一意思決定者に確認することなく、最終の意思決定をすることができるものとします。また、上記の意思決定者がともに不在かつ連絡が取れない場合には、基本ポリシーののっとなって、現場にいるスタッフ全員の合議によって意思決定を行うものとします。

◆災害発生時の連絡体制

基本的に以下の優先順位に従って有効な方法を選択し、保護者との連絡を取るものとします。

- ① FISグループ全体LINE
- ② Story Park 上の情報告知 + 通知メール
(Community Post/Announcement)
- ③ FIS連絡用公式アカウント (個別連絡)
- ④ 電話 (自宅/携帯)

◆災害発生時の行動

地震等により交通機関が動かなくなった場合には、保護者に対して子どもを安全に引き渡すまでの間は以下の基準によって行動するものとします。

- ① スクールにいる場合：そのままスクール待機
- ② スクールの徒歩圏内にいる場合：スクールに戻って待機
- ③ 自宅あるいは、最寄り駅近くにいる場合：自宅に自力で戻る
- ④ 通学途中の駅で止まった場合：駅で待機
- ⑤ 校外学習の場合：安全な場所で待機

※最終的には、基本ポリシーに基づいて判断して行動する力が求められます

《災害時の避難場所》

- 第一避難場所：宮本公民館
- 第二避難場所：船橋大神宮

※宮本台公園・池の端公園に居る場合は、峰台小学校へ避難します

※天沼公園周辺に居る場合は、天沼公園が避難場所です



11. 利用者向け保険

当施設では、以下のとおり保険に加入しています。

- 保険の種類：賠償責任保険
- 保険事故（内容）
- 保険金額 賠償責任 100,000 千円 / 1 名
（限度額）200,000 千円 / 1 事故

個人賠償責任保険、交通事故障害保険等、任意で加入することも可能です。
ご加入をご検討の方は、別途申し出ください。

12. 寄付金について

FISではスクール運営のため、保護者の皆様には、毎年授業料の一部として寄付金の納付をお願いしております。何卒、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

13. スクール運営法人

特定非営利活動法人（NPO）Free International School
※会員制度についてはホームページの「NPO 会員について」をご覧ください

Message

私がこの教育に出会ったのは、14年前。息子がお腹に居る時でした。当時、自己肯定感が底辺だった私は、自分の子どもなんて、可愛いと思える訳がない…と、すら感じていました。しかし、生まれてきた息子は予想に反して、私とは、まったく別の生き物でした。当たり前ですよ(笑)でも、だからこそ、息子を可愛いと思えた。

そこからは、子育てに奮闘の日々。当時使っていた育児日記(4年分)には、子どもの睡眠時間、トイレの回数、離乳食の品目はもちろん、グラム数までが事細かに記載されています。当時必死に探究したことが、FISカリキュラムの原点になっています。私自身、この教育に出会ったことで人生が変わりました。もし出会っていなかったらと思うと、今でもぞっとします。

FISに出会っていただいた皆様も、口を揃えてこうおっしゃいます。「子どもだけでなく、家族全体が変わった」「もっと早く知りたかった」特別なことをしているわけではありません。ただ、この教育を“知り”、“実践した”という違いだけなのです。

これからのAI時代、求められるのは、知識量ではなく、自ら考え、選び、行動できる力。子どもたちの未来のために。そして、理想の家族関係を築くために。ぜひ、FISの教育を受け取り、日常の中で一歩を踏み出してみてください。あなたの人生も、静かに、そして確実に動き出します。

2026年4月吉日



FIS Free+ International School 代表 青沼 弥幸

【TEL】090-5318-9342 【MAIL】contact@free-is.org

【住所】千葉県船橋市宮本6-4-1

▼ FISの最新情報をSNSメディアでも発信しています。ぜひフォローして日常に取り入れてみてください！▼

公式ホームページ



Kindergarten



Grade School



Middle School



FIS Online Base

LINE



FIS公式
LINE



Miyuki Aonuma
公式LINE

Instagram



FIS公式
アカウント



Miyuki Aonuma
アカウント

Youtube



公式YouTube
チャンネル



お客様の声



幼少教育の専門家
Ms.みゆき



Believe in your infinite potential